

# 令和7年度 第3回学校運営協議会記録

## 1. 日時・場所

令和8年2月2日（月）13：20～14：30

大阪府立八尾高等学校 校長室

## 2. 出席者

大阪教育大学教授 廣木 義久

八尾市内学習塾代表 児玉 隆

八尾市立成法中学校校長 小山 健治

八尾市立八尾小学校校長 浅野 貴至

本校PTA会長 吉本 桃

本校同窓会副会長 松村 康隆

本校

中島彩子(校長) 中村泰造(教頭) 百軒由香子(事務長) 水野道尚(首席) 久世逸平(首席)

庄司佳保里(教務主任) 久米祥子(進路指導主事) 長田貴史(3学年主任) 藤本一典(2学年主任)

田名瀬洋平(1学年主任)

## 3. 「令和7年度学校評価」について

校長から説明。

- 現状のリーフレットでは中学生にアドバンス教育コースの魅力が伝わりにくい。メリットが直感的に理解できるような見せ方の工夫が必要である。
- 教員の長時間労働削減のため、部活動指導におけるOB・OG等の外部人材をより積極的に活用すべきである。今後、教職員定数の削減が見込まれる中、早期に外部連携の仕組みを構築しなければ、残された教員の負担がさらに深刻化するという懸念が示された。
- 教員には一般企業のような「残業代」の概念が薄く、時間の使い方を管理するという感覚が育ちにくい側面があるとの指摘がなされた。
- 地域クラブの周年事業への軽音楽部の参加など、地域との連携を大切にする姿勢が高く評価された。

## 4. 「令和7年度学校教育自己診断結果」について

首席から説明。

- 行事の活気やICT活用の成果など、高く評価されているポイントを学校案内リーフレット等で視覚的にアピールし、中学校側に伝えるべきである。
- 部活動に注力して帰宅後すぐに就寝してしまう生徒の実態について、中学時代のコロナ禍による活動自粛の反動で、今できる活動に過剰なエネルギーを注いでいるのではないかとの意見が出された。こうした背景もあり、目標とする学習時間の確保が体力的に難しい現状が共有された。

## 5. 「令和7年度授業アンケート結果」について

校長から説明。特に意見なし。

**6. 「78期生徒の共通テスト及び国公立大学出願数」について**

進路指導主事から説明。 特に意見なし。

**7. 「令和8年度学校経営計画」について**

校長から説明。

令和8年度学校経営計画の学校運営に関する基本的な方針（「めざす学校像」及び「中期的目標」）について承認を得た。

**8. 「令和8年度使用副読本」について**

教務主任から説明。 特に意見なし。